

## 第26回 埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和3年4月10日（土）10：00～11：30

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長（WEB参加）

金井 忠男 埼玉県医師会 会長

坂木 晴世 国際医療福祉大学大学院 准教授（WEB参加）

讚井 将満 自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長（WEB参加）

竹田 晋浩 かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長（WEB参加）

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長（WEB参加）

4. 県側参加者

大野 元裕 知事

山崎 達也 福祉部長（WEB参加）

関本 建二 保健医療部長

安藤 宏 危機管理防災部長

星 永進 保健医療部 参事

本多 麻夫 保健医療部 参事

岸本 剛 衛生研究所 副所長

## 5. 主な意見

### ア 現状の分析・評価について

- 大阪の状況を聞くと、イギリス型の変異株の急激な増加により医療現場を圧迫する可能性がある。若年者の重症化リスクも注意しなければならない。（竹田委員、坂木委員）
- 変異株の実態についてはいまだ不明なことが多い。現時点で早急にまん延防止等重点措置を講じる必要性はないが、来週中には今後の対応方針を決断すべきである。この1週間は特に重要である。（岡部委員、坂木委員）
- 大阪では一度確保病床を減らした結果、再度要請を受けた際に確保に時間がかかった経緯がある。4月は人事異動もあり速やかな対応が難しい時期でもあるため、感染拡大に備えて重症患者の病床は十分に確保しておくべきである。（竹田委員、讃井委員）
- 東京都でまん延防止等重点措置が適用されることにより、埼玉県の人々の動きもそれに呼応し変化があるのではないか。この1週間は注視すべきである。（坂木委員）
- 仮に、まん延防止等重点措置を実施する場合には、どのような措置を重点的に行うといったことが重要である。（金井委員）
- 入院率の指標は、都道府県により基準が異なるため、都道府県ごとの経時的変化を捉えるという観点では意味をなすが、他都道府県との比較の指標とするのは限界があるのではないか。（讃井委員、岡部委員）
- 今後の感染拡大時の医療整備体制について、国からは役割分担を定めるべきとの通知が来ているが非常に難しいと思う。埼玉県は受入病床だけではなく、疑い病床や後方支援病床など他の自治体と比較してもしっかりと取り組んでいることを打ち出していく必要がある。（金井委員）